

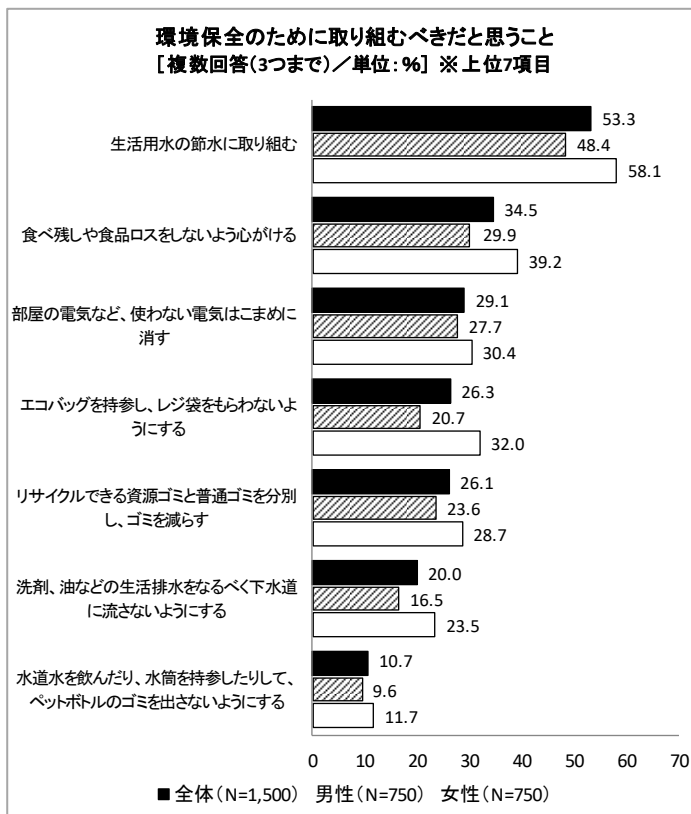
Q.環境保全のために取り組むべきだと思うことは？（11択＋思うことはない）

◇“無駄をなくす”取り組みが上位。

“汚さない”意識は低め

環境保全のために日常で取り組むべきだと思うことを、予め提示した項目の中から3つまで選んでもらったところ、1位「生活水の節水に取り組む」（53.3%）、2位「食べ残しや食品ロスをしない」（34.5%）、3位「使わない電気はこまめに消す」（29.1%）となり、“無駄をなくす”ための取り組みが上位を占めたのに比べ、「洗剤、油などの生活排水を下水道に流さないようにする」は6位（20.0%）、「水道水を飲んだり、水筒を持参したりして、ペットボトルのゴミを出さないようにする」は7位（10.7%）と、排水を流さず、ゴミを出さない“汚さない”ことへの意識は低いことが分かりました。

また、「エコバッグを持参し、レジ袋をもらわないようにする」（男性20.7%、女性32.0%）の男女11.3ポイント差をはじめ、多くの項目で女性の方が高い数値となっており、性別による意識差も浮き彫りになりました。

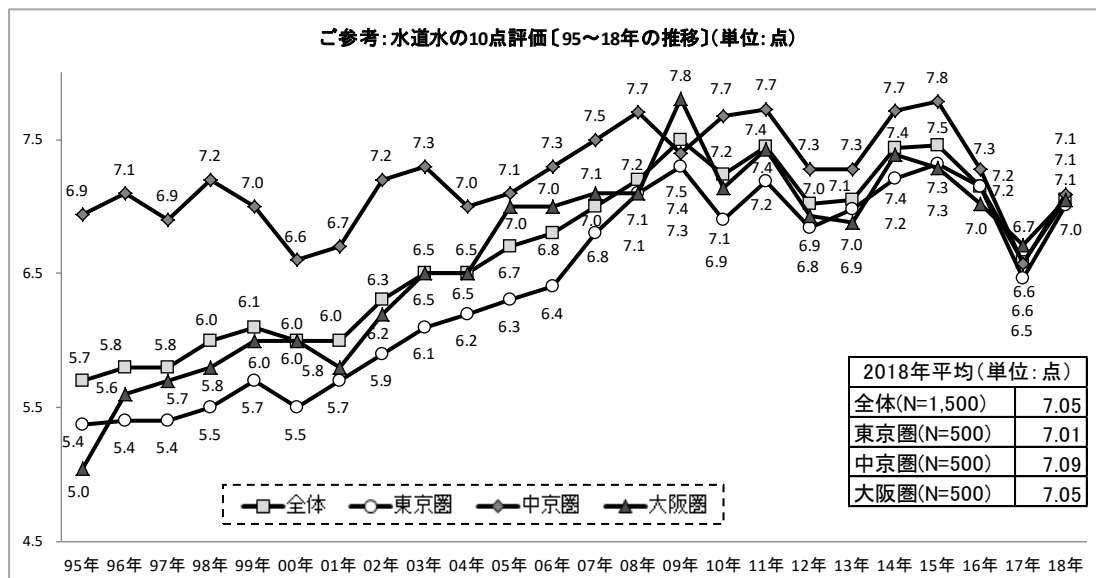


水道水に関する意識

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇平均が7点台を回復。10点満点回答率もアップ

水道水の評価は、昨年の調査で平均点が7点を大幅に割り込み、6点台半ばまで落ち込みました。今年の結果は、全体の平均が昨年から0.47ポイント増の7.05点、東京圏が0.55ポイント増の7.01点、中京圏が0.52ポイント増の7.09点、大阪圏が0.34ポイント増の7.05点と、いずれも7点台を回復しました。また、10点満点をつけた回答者の割合も昨年から3.7ポイント増加の12.6%。居住地別では東京圏が最も高く、昨年比5.0ポイント増の13.4%でした（中京圏11.6%、大阪圏12.8%）。



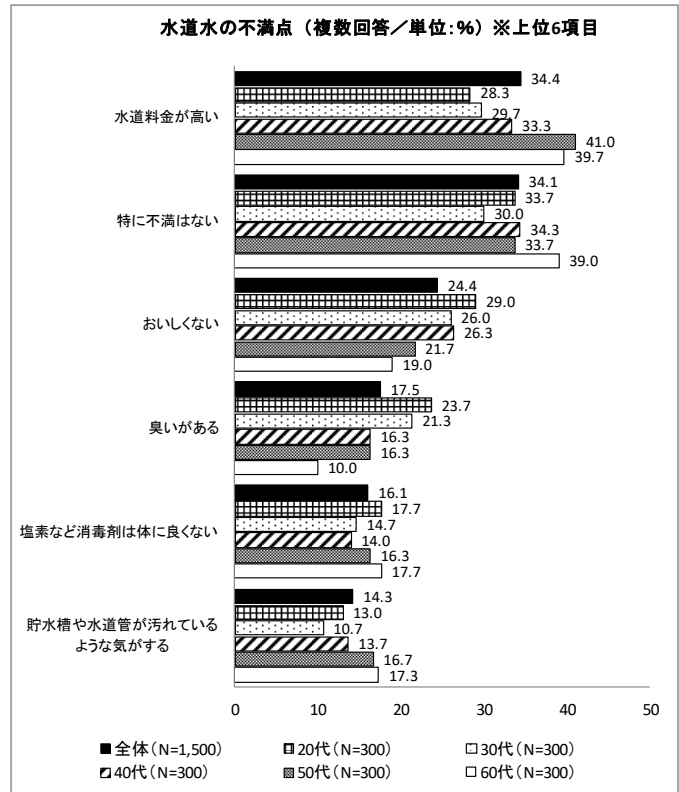
対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2014年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)
有効回答数：1995～2009年…443～553、2010～2018年…1,500

Q.水道水について不満を感じていることは？ (8択+その他+特に不満はない)

◇「水道料金」が1位に。「不満なし」は減少

水道水の評価得点がアップした一方で、水道水への不満については、昨年から2.1ポイント増加した「水道料金が高い」(34.4%)が1位となり、「特に不満はない」(34.1%)は4.8ポイント減で2位に後退。次いで「おいしくない」(24.4%)が3位、「臭いがある」(17.5%)が4位でした。

年代別にみると、「水道料金が高い」は50代、60代の高い年代が多く回答した一方で、「おいしくない」は20代~40代、「臭いがある」は20代、30代と、低い年代の回答が多い傾向が見られました。



水と生活・文化

Q.水と関わりの深い日本の文化は？ (16択+その他+特になし)

◇「そのまま飲める水道インフラ」が4年連続1位。60代が特に高く、76.5%が回答

「そのまま飲める水道インフラ」が2015年の調査開始以降、4年連続の1位。昨年さらにポイントを上積み(4.2ポイント増)し、6割超(60.3%)の回答を得ました。

中でも、60代は76.3%と回答率が特に高く、次に高かった50代(60.0%)と16.3ポイント、一番低かった30代(52.3%)とは24.0ポイントと大きく上回り、全体の数値を押し上げる結果となりました。以下は、2位「清潔で機能が充実した水洗トイレ」(47.4%)、3位「のどかな水田風景」(37.1%)、4位「豊かな水を蓄える森林や山々」(35.3%)、5位「温泉や銭湯などの入浴習慣」(33.1%)となり、これらの項目も、60代の数値が高い傾向にありました。

